

第22回高知県公立大学法人評価委員会 議事要旨

平成28年8月31日(水) 13:25~15:00

場所：高知会館 2階天平

出席者

評価委員：宮田速雄(委員長) 森下勝彦 寺田覚 濱中俊一

県：尾崎私学・大学支援課長 行宗課長補佐 大窪チーフ 服部主幹

委員長

高知県公立大学法人の平成27年度業務実績評価書案について、事務局から説明をお願いします。

事務局

評価書案については、先日案をお送りし、その時点から変更したものを見え消しとしている。変更点については、委員の先生からご意見、法人からの意見及び再度見直しを行ったものとなっている。

なお、評価書案について説明ができていなかったのもので、改めて評価書について説明を行う。

・・・説明・・・

委員長

工科大の入学者数を入れなかったのはなぜか。

事務局

木村委員からの意見をもとに、この入学者数は定員に対して許容範囲ではあるが、大規模私立大学等入学定員を上回って入学させている大学への是正の問題や、国公立大学の入学定員厳守の原則に抵触しかねないので、修正してはどうかとの意見により、修正した。

C委員

今の意見に反対する訳ではないが、全体的に数字が入れられるところは入れるというスタンスで書かれていると考えてよいのか。

事務局

入れることができるところは入れている。例えば7ページのキャンパス間連絡バスのところも、木村委員の意見をもとに、人数を入れて標記している。

委員長

県立大には就職率99.6%が入っているが、工科大には入っていない。

事務局

入れることは問題ない。就職率は、県立大学とほぼ同じくらいの割合である。

C委員

そのような数字の取扱は統一したほうがいい。

事務局

工科大の就職関係について記載されているところに入れるようにし、修正については、委員長に一任をお願いしたい。

委員長

特に意見がなければ、修正について一任をいただき、原案どおり高知

県公立大学法人の平成27年度業務実績評価書として決定してよいか。

他委員

異議なし。

委員長

高知県公立大学法人の平成27年度実績評価書については、一部修正したうえで知事に報告することとする。

委員長

次に、高知県が設立した公立大学法人の利益処分について説明をお願いする。

事務局

・・・説明・・・

B委員

資料4について、県立大学は当期利益について61万円発生しているが、目的積立金の取崩額によって、利益はどのようにでも変わるのではないかと思っている。

公立大学の会計基準では、目的積立金の対象となる経費と同額を取崩すこととなっており、目的積立金取崩額の1億600万円の用途についての補足資料をもらいたい。そのようにしないと、自己収入の増など経営努力としての利益が出てこない。

目的積立金取崩額の1億600万円について、大まかにでも何にどのように使ったのか分かるものを出して欲しい。

次に、工科大学において、支出のところで、経費削減と支出増で合計3200万円増という意味がわからない。

事務局

一般管理費は削減されているが、その削減分と授業料収入等の増加による利益を、研究機器の更新にあてている。

この支出の個所については、一般管理費の削減と研究機器更新の増加だけを見たもので、合計3200万円増加しているものの、授業料等収入の増加で4100万円増加していることで、最終的に860万円の利益が出ているという意味である。

B委員

最後に法人部分について、今回統合により初めてできたのに、削減というと、これまでないものに対してどう削減になったのか。

また、前回の評価委員会での決算概要の資料で、セグメント情報が載っていたが、この資料では、法人本部に運営費交付金が5800万円入っている。この5800万円は経費と人件費に全て充てられている。となると、この人件費は運営費交付金から賄われていることとなり、運営費交付金が余っていることになる。

雑益で200万円、施設貸付け等収入で200万円増えたということではないのか。

事務局

この件については、事務局においても一度確認し、その後委員長に

| | |
|-----|---|
| | 一任とさせていただきたい。 |
| 委員長 | 一部資料の修正はあるかもしれないが、全体として承認について異存はないということによろしいか。 |
| 他委員 | 異議なし |
| 委員長 | それでは、全体として異存はないということで、知事に報告する。 |
| 委員長 | 最後に、第2期中期目標案について事務局に説明をお願いします。 |
| 事務局 | ・・・説明・・・ |
| 委員長 | 委員からの意見である、「南海トラフ地震等地域の災害対策に関する目標」について、「地域の」と入れることで本文と矛盾が出てくるのであれば、「南海トラフ地震等大規模災害対策に関する目標」としてはどうか。 |
| 事務局 | 検討し、原案を修正する方向で調整する。 |
| A委員 | 生涯学習のところで、「知の拠点」という文言を使っているが、高知大学のCOC事業と関わりがあるのか。 |
| 事務局 | COC事業とは別で、これまでも県立大学改革など、COC事業が始まる前から、この「知の拠点」という言葉は使用してきている。 |
| B委員 | 事務組織について、法人の実績報告書評価案においても、一定評価されていると思うが、第1期で評価されているものと同じものを第2期にも入れるのか。最終的にイメージしているものなのかはあるのか。 |
| 委員長 | 組織の最終型というものはないと思うので、「常に組織の在り方を見直し」のようにしてはどうか。 |
| 事務局 | 法人統合を行い、現状がどうなっているかと説明すると、工科大学においては、もともと私立大学であったこともあり、とてもシステマティックに物事を進めている。一方で県立大学においては、元が県の組織であったこともあり、何ごともしっかりと積み上げる方式である。それぞれやり方が違う中で、少しずつ統合はしてきたが、現時点ではまだまだ道半ばであると考えており、そのような事を踏まえ、もっと進めて欲しいという意味で、このような書き方としている。 |
| B委員 | 最終的に統一はできるのか。 |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | 香美キャンパスから池キャンパスへ事務職員を派遣し、永国寺キャンパスにおいては、両大学が同じフロアで仕事をしている。また、各種システムにおいても統合しており、相互に影響が進んでいる状態である。急に全てが同じになることはできないが、徐々に進めていっている状況である。 |
| B委員 | 今回感じたのは、これまで別々の法人で評価を受けており、評価委員からもダブルスタンダードにならないようにと意見があった。これが統合して一つになると研究費や人件費の在り方など、違いがよく分かる。 また、目的積立金について、今年度で中期目標期間が終了である。現在目的積立金が結構な額あると思うが、中期目標が終わるとどうなるのか |
| 事務局 | 現在、目的積立金で池キャンパスに国際寮を建設しており、そこに、留学生と日本人学生を入れて相互交流できるように計画している。 |
| C委員 | 学生の受け入れに関する目標について、原案で結構であると思うが、アドミッションポリシーに基づき、選抜方法の工夫及び改善を図りと曖昧にせず直接的に記載されており、そのとおりだと思うがここまで直接的に記載していいのか。 |
| 事務局 | 当該中期目標については、大学とも調整を行いながら作成しており、大学側も確認済みでる。 |
| 委員長 | 第2期中期目標については、全体として異存はないということで報告してよろしいか。 |
| 他委員 | 異議なし |
| 委員長 | 本日の会は、これで終了する。(了) |